

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 大原 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均をやや上回っており、無回答は一問もなかった。 ・「話すこと・聞くこと」に関しては正答率が高いが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については課題が見られた。慣用句の意味や漢字など基礎的・基本的な内容の習熟を図る必要がある。
	よくできた問題	・文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書く問題については正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題については正答率が低かった。
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均を上回っており、無回答率も低かった。 ・「書くこと」に関しては特に正答率が高かったが、「話すこと・聞くこと」に関してはやや課題が見られた。計画的な学級会の実施など、話し合い活動の充実を図る必要がある。
	よくできた問題	・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題について正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・計画的に話し合うために、司会の役割について捉える問題については正答率が低かった。
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均を下回っているが、無回答は一問もなかった。 ・「量と測定」「数量関係」について特に課題が見られる。数直線や線分図、関係図などを用いて式と図を関連付ける活動を充実させ、理解を深める必要がある。
	よくできた問題	・円周率の意味について理解しているかどうかの問題については正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・折れ線グラフから変化の特徴を読み取る問題については正答率が低かった。
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均をやや下回っているが、「数と計算」領域以外の領域は全国平均と同程度かやや上回っている。また、記述式の問題についても無回答率は低かった。 ・グラフの読み取りについては特に課題が見られる。算数科はもとより、社会科・理科の学習とも関連付けながら、複数の資料からの読み取り等について指導の充実を図る必要がある。
	よくできた問題	・図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述する問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、記述する問題については正答率が低かった。
理科	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均をやや下回っている。記述式の問題については全国平均と同程度で、無回答は一問もなかった。 ・科学的な思考・表現に関する問題に課題が見られた。実験の結果を分析して考察する過程において、自分の考えをしっかりと表現する活動を充実させるなど、指導の工夫を行う。
	よくできた問題	・堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解しているかどうかを問う問題については正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・太陽の1日の位置の変化と光電地に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用する問題については正答率が低かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での学習習慣について、依然として課題があるが、計画を立てて学習することや1日あたりの学習時間については改善傾向にある。 ・睡眠時間が安定していない児童やテレビゲームの時間について課題があるが、平日平均で1時間以上ゲームをする児童の割合は減少した。 ・地域や社会の出来事に関心をもっている児童の割合や地域や社会をよくするため何をすべきか考える児童の割合は全国平均を大きく上回っているが、ボランティア等の経験など、実際の行動にはつながっていない。 ・自分にはよいところがあるという自尊感情や将来の夢や目標をもっている児童の割合は増加傾向にある。学校行事等、今後も一人一人が輝く機会を意図的に設けるとともに、キャリア教育の充実を図っていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の授業において導入時に漢字や慣用句の復習を毎時間行うなど、基礎的・基本的な事項の一層の習熟に努める。 ・算数科の授業において線分図や関係図など、図を用いて考える活動や図と式を関連付けて説明する活動の充実を図る。また給食時間中のきらきら教室や少人数指導の充実により、個に応じた指導の充実を図る。 ・理科の授業において実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する活動を充実させる。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自主的・計画的に学習できるよう、今後も学年に応じた家庭学習チャレンジハンドブックの活用を図る。 ・地域やPTAと連携し、児童が地域のために活動する機会を設けることで、自尊感情の向上に資する。 ・学校だよりや保健室だより、学年通信などによって児童の生活習慣についての実情を周知するとともに、PTAと連携した取組を行い、課題の改善につなげる。
